



イメージを持つための資料。一部極端に書いてます。

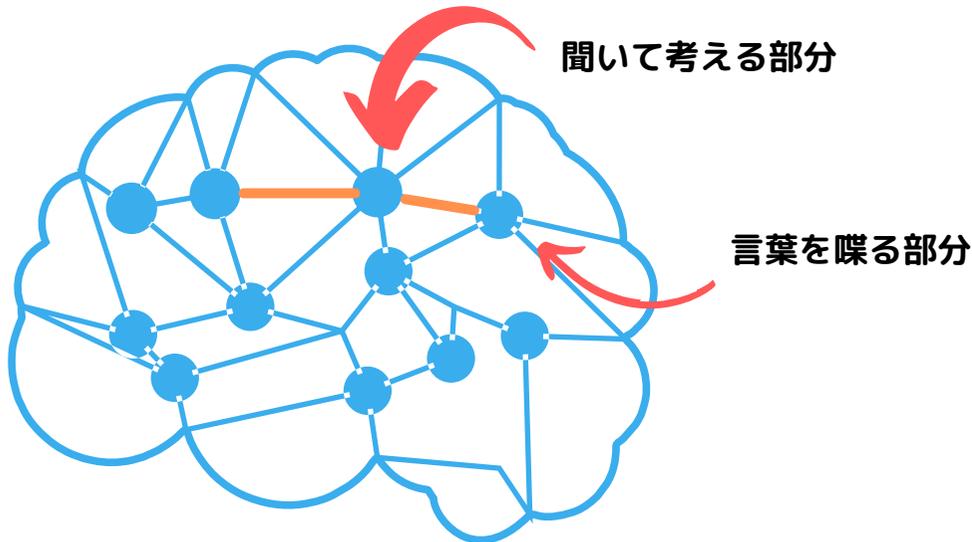
チックについて.1



この場合のチックは、まばたき、首や体を動かすこと、クックと喉や口で音を鳴らすこと・吃音などを想定しています。



チックは脳の中で、いろんな感覚が連絡し合うときに渋滞、またはスムーズに連絡できないときに起こることが多いと思っておくイメージしやすい。



脳の中では、このオレンジの線の部分でお互いに連絡し合っているとイメージしてほしい。

もし、この連絡し合っているときに、“聞いて考える部分”より“言葉を喋る部分”ばかり働くと……
考えるより言葉が先に出る…という状況に…。



「あ、あ、あ、あのさあ〜。」と吃音になっちゃう…というイメージ。

この、お互いに連絡し合っても、うまく脳が処理して渋滞もなければ、一方的にもならない…という脳の仕組みは、だいたい年少さんくらい（年齢で言えば3歳くらいから。実感としては3歳6カ月くらい）からうまく連携していくと言われている。→だから、ケンケン、考えながら喋ることがスムーズになっていく。



イメージを持つための資料。一部極端に書いてます。

チックについて.2

大事なことは、なんらかの理由で頭の情報処理しきれないときに体に出る=チックというイメージが湧くかも。

チックはストレスでなるのは事実。でももっと厳密に言えば、ストレスや疲れで脳の処理が落ちて、その子の過敏または安心する感覚に、または苦手（弱い）ところにチックという形で出やすいという表現に近い。

触覚に過敏または安心する感覚がある子は…

タオルを離さなくなる。人の肌にスリスリする。→ずっと服など、何かを触るなどの様子がある。

自閉症スペクトラムで感覚的な刺激が好きな子で、クルクル回る感覚が好きな子は…

ずっとクルクル回るなどの様子がある。（一定の間隔で動くものを見ることが好きかもしれない）



まばたきや口を開けるような動きをする場合は…

その言動をすることで、その子にとっては安心する感覚、もしくは勝手に出ちゃうのかも…という仮説を立てる。（安心なのか出ちゃうのかなど、ここは子どもによって違うので、この子にとってはこの感覚が過敏、または安心するんだな—とっておけばok。）

保護者の方と話をする場合は、聞いたら好きな感覚があるかを聞いてみてもok。

「お布団にくるまるの好きですか?」、「抱っこでぎゅっとされてるの好きですか?」、「くっつくの好きですか?」など、皮膚感覚や前庭覚、固有受容覚、触覚など、感覚に関する話を聞くと、その子の過敏、または安心する感覚に検討がつくかも…。



大事なことは、ストレス=チックというより、頭で処理しきれなくて、体に出ているという発想が大事。





イメージを持つための資料。一部極端に書いてます。

チックについて.3

チックが出ている時点で、感覚の過敏さや頭の情報処理過多が起きていることが多い。



先生方は、園の中で先生自身や子どもが言ったこと、聞いたこと、指示したことが処理・理解できているかを確認しておくことが大切。（理解ではなく処理できているかを見立てるため）



このへんをチェック!!



- ①実年齢より幼いか？（見聞きすること、考えること、頭で覚えることなどが成熟しているかを確認するため。）
- ②感覚過敏、または安心する（好きな）感覚があるか？（ある人は、情緒不安定で泣くよりチックに出やすい子もいる）
- ③自宅や園での大人の指示数の多さと、子どもの処理できるレベルが見合っているか？（マイペースな子に一気にたくさん喋る、または全体が落ち着かないクラスだと、いくら先生が配慮しても自然と処理する情報が多くなる＝情報過多でチックが起きやすい）

先生方が
できる
配慮

- ①保護者の方には、ストレス＝チックではないことを伝える。
- ②どんなときにチックが出るのかを確認。出たら、そのときの先生の指示数やクラス内での他児の動きを確認。頭で考える・処理することが多くないかを確認。
- ③時期（バタバタする春、少し落ち着く夏、イベントが増えやすい秋～冬など）を考慮。自宅や園での環境で、やることやそれによる疲れが増えやすいときではないかを検討。
- ④感覚等に過敏さがないかを確認。

①～④あれば、少し緩和できる策を!!